2022年度【第11回】
四国地区社会福祉士合同研修会
「ソーシャルワークを紡ぐ」
～一人ひとりが繋がりを実感できる社会への変革と社会的包摂の実現～

現在、少子化、核家族の進行により社会の形態は大きく変化しており、私たち社会福祉士も一つの分野や単独のアプローチでの課題解決が難しくなっています。また新型コロナウイルスが急激に拡大したことで、人々がつながりあい支えあいながら生活してきた従来の形態が極めて困難になり、孤立化が顕著に進んだり、社会的格差の問題が顕在化するようになったりと社会の課題も大きく変化してきています。
私たち社会福祉士は、このような社会の変化にどう対応し、何を目指していくべきなのでしょうか。誰もが自らの意思が反映された生活を送ることが可能になるように、本人の最善の利益を考えながら支援していくにはどうしたら良いのでしょうか。社会の様々な分野で多様な人々や組織とつながりあいながら、多様性の尊重、権利擁護を意識して活動していくためには何が必要なのでしょうか。
本研修会では、講演や様々な分野で活動しておられる実践報告を通じて、日頃からこれらの問題について対峙している私たちが、実践から学んだ「英知」を結集し今後のソーシャルワーク実践の展望について考える機会とします。一人一人の生活の質を高めていくために、人々がつながりを実践できるように、ソーシャルワークを紡いでいきましょう。

2022年（令和４年）12月10日(土)・11日(日)
場所：ホテルマリンパレスさぬき
(〒760-0066 香川県高松市福岡町２丁目3−４)
＋　オンライン

対象：社会福祉士(四国地区以外も可)　・社会福祉に関心のある方

定員：会場100名　　：オンライン全体会270名(Zoomを使用)
(先着順、定員になり次第受付を終了します。)

：会場研究分科会各30名程度　　：オンライン分科会各90名
(第1～第3希望により割り振ります。)　　(第１～第３希望により割り振ります。)

参加費：　会場で参加　4,000円
オンラインで参加　3,000円
会員、非会員同額

※オンライン参加の場合、途中で通信状態が悪くなった場合や、途中退席した場合等いかなる場合も参加費の返金はできません。

1日目　12/10(土)

12:30～受付
13:45～15:15
〈基調講演「権利擁護としての意思決定支援」〉

毎日新聞客員編集委員、植草学園大学　副学長・教授
野澤　和弘　氏

※プロフィール詳細はこちらに掲載しています。
http://www.kagawacsw.com



1983年毎日新聞入社。いじめ、引きこもり、児童虐待などを報道する。論説委員(社会保障担当)を11年間務め、現在、社会保障審議会障害者部会委員、障害者政策委員会委員などを務める。
主な著書に「条例のある街」(ぶどう社)、「あの夜、君が泣いたわけ」など多数。

15:30～17:00　〈シンポジウム〉
シンポジスト
・毎日新聞客員編集委員　野澤　和弘　氏
・香川県弁護士会　松本　タミ　氏
・香川県社会福祉士会　和泉とみ代　氏
コーディネーター
・前香川社会福祉士会会長　岡﨑　昌枝　氏

２日目

12/11(日)
9:00～12:00 実践研究
12:00～12:10　閉　会

研究分科会１　地域支援（災害）

【開催趣旨】

東日本大震災からの復興支援や減災対策の推進のほか、新型コロナ対応など私たちの日常の中で災害対策が大きなウエイトを占めてきております。
このような中、私たちには社会福祉士として地域社会でその専門性を受け、社会福祉士として災害対策における社会福祉士が担うべきソーシャルワークについて深めていきたいと考えています。

会　場：　瀬戸　A
司　会：　田中　元　氏
助言者：特別養護老人ホーム満濃荘
　　施設長　栗田　猛　氏
発表者：・徳島県　湯浅　雅志　氏
　　・愛媛県　米田　順哉　氏
　　・香川県　三木　貴子　氏

研究分科会２　生活構造（在宅支援）

【開催趣旨】

少子化、核家族の進行により社会形態は大きく変化してきているほか、新型コロナウイルスの拡大により、従前の人々のつながりあい支えあいながらの生活構造が機能しなくなってきています。このような中、私たちには社会福祉士として、地域社会でその専門性を生かした在宅支援が求められています。
この分科会では、各報告者から、それぞれの分野での実践報告を受け、社会福祉士として、在宅支援分野における社会福祉士が担うべき役割と専門性について深めていきたいと考えています。

会　場：　瀬戸　B
司　会：　筒井　達也　氏
助言者：自立ケアシステム香川　訪問看護ステーション
　　管理者　和泉　とみ代　氏
発表者：・徳島県　萩田　靖子　氏
　　・高知県　土居　美久　氏
　　・香川県　大平　朋美　氏

研究分科会３　相談援助（多職種連携）

【開催趣旨】

少子化、核家族の進行により社会形態は大きく変化してきているほか、権利擁護の徹底、多様性の尊重など、ソーシャルワークのあり方がより人々のニーズ等が対応することが求められています。このような中、私たちには、社会福祉士として相談援助の場で本人の最善の利益の追求が図られるようその専門生を生かした支援が求められています。　この分科会では、各報告者から、それぞれの分野での事績報告を受け、社会福祉士として相談援助（多職種連携）における社会福祉士が担うべき役割と専門性について深めていきたいと考えています。

会　場：　屋島　A
司　会：　和田　有加　氏
助言者：四国学院大学社会福祉学部　社会福祉学科
　　准教授　北川　裕美子　氏
発表者：・高知県　片岡　裕美　氏
　　・愛媛県　西村　幸　氏
　　・香川県　山本　眞也　氏

会場：ホテルマリンパレスさぬき

〒760-0066 香川県高松市福岡町2丁目3－4



バス　＜JR高松駅＞ことでんバス朝日町線「県立武道館前」下車　徒歩3分
私鉄　＜瓦町駅＞　ことでん志度線「松島二丁目駅」下車徒歩15分
お車　　高松中央I.Cより15分　高松西I.Cより25分

主催：一般社団法人愛媛県社会福祉士会
　　一般社団法人高知県社会福祉士会
　　一般社団法人徳島県社会福祉士会
　　公益社団法人香川県社会福祉士会（主管）
後援：(予定）公益社団法人日本社会福祉士会　社会福祉法人香川県社会福祉協議会
　　一般社団法人香川県介護福祉士会　一般社団法人香川県介護支援専門員協議
　　香川県精神保健福祉士会協会　香川県医療ソーシャルワーカ協会
　　香川県ソーシャルワーカー協会　香川スクールソーシャルワーカー協会
　　香川県相談支援専門員協会

参加申込：別紙「参加・宿泊申込書」により、2022(令和4)年11月18日までに、
下記WEB申し込みURL(またはQRコード）よりお申し込みください。
URL　http://www.mwt-mice.com/events/sw-shikoku2022

申し込みQRコードはコチラ▶▶▶

参加費の振込に関しましては、後日郵送される請求書をご確認の上、１１月３０日（水）までにご入金ください。
キャンセルについては、キャンセル料が発生します。キャンセルされる場合は必ず下記までご連絡ください。

名鉄観光サービス（株）高松市店（担当：喜多野・井上）
〒760-0023 香川県高松市寿町1－4－３高松中央通りビル３F
TEL　087－822－1621　　FAX　087－822－1628
E-mail：yusuke.kitano@mwt.co.jp

１日目シンポジウム
シンポジスト＆コーディネーター紹介！

野澤　和弘　氏

毎日新聞客員編集委員/植草学園大学副学長（教授）
１９８３年早稲田大学法学部卒業、毎日新聞入社。いじめ、引きこもり、
児童虐待,障害者虐待などを報道する。論説委員(社会保障担当）を11年間務め
2019年10月退社。現在は一般社団法人スローコミュニケーション代表、東京大学
「障がい者のリアルに迫るゼミ」主任講師、上智大非常勤講師、社会保障審議会障害者
部会委員、障害者政策委員会委員なども。
主な著書に「スローコミニュケーション～わかりやすい文章、わかちあう文化」
(スローコミュニケーション出版）、「なんとなくは、生きられない。」
「障害者のリアル×東大生のリアル」「条例のある街」(ぶどう社）、
「あの夜、君が泣いたわけ」「殺さないで～児童虐待という犯罪」(中央法規）、
「わかりやすさの本質」(NHK出版）、「福祉を食う～虐待される障害者たち」
（毎日新聞社）「なぜ人は虐待するのか」(Sプランニング）など。

松本　タミ　氏

生年月日　1943年10月
最終学歴　神戸大学大学院博士課程中退
1970年04月　琉球政府立琉球大学(講師)
72年05月　琉球大学国立大学
76年04月　香川大学(助教授)
84年04月　同　　教授
85年04月　同大学院教授
04年04月　同連合法務研究科(Law　School)教授
09月　弁護士登録実業家としてスタート
07年03月　香川大学定年(63歳）退職　名誉教授となる
大学では、民法特に家族法を中心、法社会学・女性の地位を
併せて研究　以後実務家として
香川県弁護士会高齢者・
障害者支援センター運営委員会所属
社会活動の中心
かがわ後見ネットワーク
特定非営利活動法人後見ネットかがわ
肩書き
香川大学名誉教授・弁護士

和泉　とみ代　氏

所属　自立ケアシステム香川　管理者

1974年から18年間看護師として地域医療に貢献したのち、
四国学院大学に入学。
その後大学院にて社会福祉学を専攻し、ノーマライゼーションの原理の生成・発展について研究を深めました。
2001年から香川短期大学にて介護福祉士養成にたずさわり、
2009年より吉備国際大学において看護師養成をしてきました。
2018年からはノーマライゼーションの原理を具現化するため地域で暮らす障害をもつ人々の自立生活を支援したいと思い日々を過ごしています。

主な著書
「ノーマライゼーションの原理　普遍化と社会変革を求めて」
河東田博編著、1998年
「よくわかる障害者福祉」小澤温編著、2003年

シンポジウムコーディネーター　岡崎　昌枝　氏

おかざき社会福祉士事務所　代表　認定社会福祉士（地域社会・多文化）
公益社団法人香川県社会福祉士会前会長（2016～2020）
香川県立保育専門学校を卒業後、生活保護法救護施設で25年指導員として勤務。
その間、介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、精神保健福祉士を取得、
日本福祉大学大学院（通信課程）を修了。その後介護福祉士・社会福祉士養成を行っていた香川短期大学で８年勤務。教員として働く傍ら京都女子大学大学院現代社会学研究科で「地域社会で暮らす高齢者」の研究を行った。その経験を活かし、現在独立型社会福祉事務所を開設した。
おもな業務は、大学地域連携研究センターのコーディネーター、
非常勤講師、後見業務（現在３件受任）である。

2022年度【第11回】

四国地区社会福祉士合同研修会開催要綱

テーマ　「ソーシャルワークを紡ぐ」

～一人ひとりがつながりを実感できる社会への変革と社会的包摂の実現～

開催趣旨

現在、少子化、核家族の進行により社会の形態は大きく変化しており、私たち社会福祉士も一つの分野や単独のアプローチでの課題解決が難しくなってきています。また新型コロナウイルスが急激に拡大したことで、人々がつながりあい支えあいながら生活してきた従来の形態が極めて困難になり、孤立化が顕著に進んだり、社会的格差の問題が顕在化するようになったりと社会の課題も大きく変化してきています。私たち社会福祉士は、このような社会の変化にどう対応し、何を目指していくべきなのでしょうか。誰もが自らの意思が反映された生活を送ることが可能になるように、本人の最善の利益を考えながら支援していくにはどうしたら良いのでしょうか。社会の様々な分野で多様な人々や組織とつながりあいながら、多様性の尊重、権利擁護を意識して活動していくためには何が必要なのでしょうか。

本研修会では、講演や様々な分野で活動しておられる実践報告を通じて、日頃からこれらの問題について対峙している私たちが、実践から学んだ「英知」を結集し今後のソーシャルワーク実践の展望について考える機会とします。一人ひとりの生活の質を高めていくために、人々がつながりを実感できるように、ソーシャルワークを紡いでいきましょう。

主　催　一般社団法人愛媛県社会福祉士会、一般社団法人高知県社会福祉士会、
一般社団法人徳島県社会福祉士会、公益社団法人香川県社会福祉士会（主管）

後　援（予定）公益社団法人　日本社会福祉士会　社会福祉法人　香川県社会福祉協議会
一般社団法人　香川県介護福祉士会　一般社団法人　香川県介護支援専門員協議会
香川県精神保健福祉士協会　　香川県医療ソーシャルワーカー協会
香川県ソーシャルワーカー協会　　香川スクールソーシャルワーカー協会

日　時　2022 年（令和 4 年）12 月 10 日（土）・11 日（日）

会　場　ホテルマリンパレスさぬき（〒760-0006 香川県高松市福岡町 2 丁目 3－4）

対　象　社会福祉士（＊四国地区以外も可）社会福祉に関心のある方

定　員　会場 100 名（＊先着順です。定員になり次第、受付を終了します。）
会場分科会各 30 名程度（第 1～第 3 希望により割り振ります。）
オンライン全体会 270 名（Zoom を使用）
オンライン分科会各 90 名（第 1～第 3 希望により割り振ります。）

参加費　会場で参加：4,000 円、オンラインで参加：3,000 円　（会員、非会員同額。オンライン参加の場合、途中で通信状態が悪くなった場合や途中退席した場合等いかなる場合も参加費の返金はできません）

参加申込　2022（令和 4）年 11 月 18 日までに、下記ＷＥＢ申し込みＵＲＬ（またはＱＲコード）よりお申し込みください。

http://www.mwt-mice.com/events/sw-shikoku2022

参加費の振込に関しましては、後日郵送される請求書をご確認の上、11 月 30 日（水）までにご入金ください。キャンセルについては、キャンセル料が発生します。キャンセルされる場合は、必ず下記までご連絡ください。

名鉄観光サービス（株）高松支店　　（担当：喜多野・井上）
〒760-0023 香川県高松市寿町 1-4-3 高松中央通りビル３F
TEL　087-822-1621　　FAX　087-822-1628
E-mail：　yusuke.kitano@mwt.co.jp

日　程

開催日	日　程　・　内　容
第１日目 12/10（土）	12:30～受　付 13:30～13:45 開　会・オリエンテーション 13:45～15：15　〈基調講演「権利擁護としての意思決定支援」 毎日新聞客員編集委員・植草学園大学 副学長・教授　野澤　和弘　氏 15:30～17:00　〈シンポジウム〉 シンポジスト ・ 毎日新聞客員編集委員　野澤　和弘　氏 ・ 香川県弁護士会　松本タミ　氏 ・ 香川県社会福祉士会　和泉とみ代　氏 コーディネーター ・ 前香川県社会福祉士会会長　岡﨑昌枝　氏
第２日目 12/11（日）	9:00～12:00　実践研究 研究分科会①地域支援【災害支援】　会場：　瀬戸A 助言者：特別養護老人ホーム満濃荘　施設長　栗田　猛　氏 発表者：・徳島県　那賀町地域包括支援センター　湯浅　雅志　氏 ・愛媛県　NPO法人家族支援フォーラム理事長米田　順哉　氏 ・香川県　香川県社会福祉協議会　三木　貴子　氏 研究分科会②生活構造【在宅支援】　会場：　瀬戸B 助言者：自立ケアシステム香川訪問看護ステーション管理者　和泉 とみ代　氏 発表者：・徳島県　徳島市医師会居宅介護サービスセンター 荻田 靖子 氏 ・高知県　ファミリーホーム土居家　管理者　土居　美久 氏 ・香川県　観音寺市地域包括支援センター　大平　朋美　氏 研究分科会③相談援助【多職種連携】会場：　屋島A 助言者：四国学院大学社会福祉学部社会福祉学科准教授 北川 裕美子 氏 発表者：・高知県　（一社）Uプロジェクト　片岡　裕美　氏 ・愛媛県　（公財）日本訪問看護財団松山相談支援センター 管理者　西村　幸　氏 ・香川県　まるがめ医療センター　山本　眞也　氏 12:00～12:10　閉　会

交流会　新型コロナの状況により、現在のところ予定しておりません。

その他　参加申込書に記載された個人情報は、本研修の運営のみに使用いたします。

研修内容等に関するお問い合わせは、下記事務局までお願いしいたします。

公益社団法人香川県社会福祉士会　事務局
〒762-0084　香川県丸亀市飯山町下法軍寺581-1
TEL 0877-98-0854　FAX 0877-98-0856 E-mail:info@kagawacsw.com